

令和 6 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	7 0	学校名	茨城県立岩瀬高等学校						課程	全日制		学校長名		西條 礼子				
教頭名	渡邊 裕美子				渡邊 英信								事務（室）長名		浅野 邦一			
教職員数	教諭	3 6	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	5 + (68)	実習教諭、実習講師、実習助手		2	事務職員	4	技術職員等	4	計	5 4	
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	普通科		1 7	3 9	2 6	5 9	3 8	5 2			8 1	1 5 0	8					
	衛生看護科		1	3 9	4	3 4	4	3 3			9	1 0 6	3					
	専攻科		1	2 6	2	3 3					3	5 9	2					

2 目指す学校像

○ 将来のあるべき姿をイメージし、自己のキャリアについて自ら考え、主体的に最良の選択ができる人間を育成する学校
○ 生徒一人ひとりと誠実に向き合い、心身ともに健康で、互いを尊重し合い、自らを律することのできる人間を育成する学校
○ 「自分の中の力を伸ばせ」という校訓のもと、自己有用感、自己肯定感を更に高め、他者と協力して、より良い未来の創造を目指し、地域と共に歩み続ける人間を育成する学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	○将来的に地域を支え、社会でよりよく生きていくために、自律した“市民”を育成する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	○多岐にわたり地域に貢献する人材を輩出している学校として、社会や地域の課題発見、解決能力を育成する教育課程を編成し、他者と協働しながらよりよい未来を創造する力を身につける機会を提供する。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○将来の自分の目標実現に向けた 3 年間又は 5 年間の学びに真剣に向き合う覚悟を持てる生徒を募集する。

別紙様式 1 (高)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学 習 指 導	学校の授業が大切であるとする生徒は多数いるが、家庭学習が習慣化されていない等、主体的な学びにつながっていない。 「朝の読書」をとおして、学習の基礎学力の向上や、豊かな感性、思いやり等生徒の心の発達に大きく影響を与えている。	教員間での相互授業参観や授業研究を行い、学習指導方法を工夫しながら授業改善を図るとともに、学習評価の方法を検討し充実させる。 I C Tを活用し、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する。 読書によって身に付けた力や自己の考えを活用する機会を増やす。
進 路 指 導	進路希望が大学・短大・専門学校、就職と多岐にわたる。 目標設定が苦手な生徒がおり、授業、課外活動、学校行事等で学んだことや経験がキャリア形成に生かせない生徒がいる。	望ましい勤労観・職業観を養い、学んだことを自己のキャリア形成に結びつけられるようにする。 スタディサプリの活用やチャレンジプロジェクトを総合探究の時間と結び付け、進路キャリア教育を一つのテーマとして主体的な進路実現を目指す。
生 徒 支 援	「朝の読書」の定着等もあり全体的に落ち着いているが、基本的な生活習慣や、公共マナー等に対する意識の不十分な生徒が一部に見られる。 情報モラルが低い生徒がおり、トラブルに発展するケースも見られる。	18歳への成年年齢引き下げに伴い、自律した市民の育成を目指し、シティズンシップ教育、金融教育、性教育、情報モラル・情報リテラシー教育を推進する。
特 別 活 動	学校行事に参加する際、自発的・積極的な姿勢が少ない。 また、部活動への加入率も低く、生徒会の主体的活動がやや低調である。	生徒の自発的な活動を促し、主体性を踏まえた生徒会活動や学校行事の展開により自己有用感を高める。 キャリア・パスポートの活用を図り、自己理解の深化を図る。
衛 生 看 護 科	看護者としての自己実現に向けて目標を定め、真摯に努力している。令和5年度の看護師国家試験では96.6%の合格率で、医療の担い手として貢献している。また、一部は大学等へ進学し、進路選択が広がった。	看護師としての職業観・豊かな人間性を醸成し、看護師という職を通しての自己実現を目指した指導を推進する。 教科指導・国家試験対策の充実と指導スキルの共有化を図ると共に、個に応じた実習指導・全人的教育の充実を図る。
業務の効率化と働き方改革の推進	よりよい教育活動を求めてきた一方、勤務時間内に行うには飽和状況にある。	生徒と向き合う時間を確保することを主眼に、校務全般に係る教職員の業務見直しを行い、持続可能な体制づくりを推進する。

別紙様式 1 (高)

5 中期的目標

- 1 豊かな人間性を培う。
- 2 基礎学力を定着させるとともに、規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立を図る。
- 3 「探究的な学び」の実践を図り、他者と協働し、課題解決のために主体的に考え行動できる生徒を育成する。
- 4 魅力ある学校づくりを進めるとともに、部活動や特別活動の活性化を図り、自尊感情を高め、心身ともに健康な生徒を育成する。
- 5 望ましい勤労観・職業観の育成を図り、生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。
- 6 5年一貫の全人的な看護教育の展開を図り、地域医療の担い手となる看護職者の養成に努める。
- 7 本校の特色ある取組を積極的に発信し開かれた学校づくりを推進する。併せて、保護者や地域社会との信頼関係を構築する。
- 8 業務の効率化及びテレワークなど働き方改革を意識し、生徒と向き合う時間の確保に努める。
- 9 生徒が意欲的に授業に参加する授業展開を行う。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1) 豊かな人間性の育成	①「総合的な探究の時間」の授業や学校行事等の教育活動全体を通して、規範意識や豊かな人間性を養うとともに、多種多様な他者や社会とどう関わるかを学ばせ、人間関係構築力やコミュニケーション力を培う。 ②「朝の読書」をとおして内省し、豊かな情操と人間性を育む。 ③実習や地域との連携した教育活動を通して、医療人(看護師)としての高い倫理観と使命感を育てる。
(2) 学習意欲の向上	④実社会との関連を意図した教育を展開することにより、地域課題を発見し、「探究的に学ぶ」姿勢を育む。 ⑤学習への動機付けを高める主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を行う。 ⑥少人数授業・課外指導等を実施し、個に応じた発展的な学びを推進して学習意欲を高め、大学入試や国家試験に対応できる学力の向上を目指す。
(3) 基本的生活習慣の確立と自律的態度の育成	⑦端正な身なり・明るい挨拶・時間厳守の習慣や清掃の徹底等、基本的生活習慣の定着を図る。 ⑧成年年齢 18 歳への引下げに伴い、規範意識の高揚や自律的態度の育成を目指す。
(4) キャリア教育の推進	⑨種々の教育活動や行事等（チャレンジプロジェクト）と関連づけながら一人一人のキャリアプランニング能力を高める。 ⑩適切な情報を提供し、生徒の主体的な進路選択に資する。 ⑪進路指導部と学年との連携を強化し、個に応じた指導の充実を図り、進路希望の実現を目指す。

別紙様式 1 (高)

(5) 魅力ある学校づくりと部活動・特別活動の活性化とキャリア・パスポートの活用	⑫生徒の主体的な取り組みによる学校行事やホームルーム活動等を展開し、生徒会活動を活性化する。 ⑬キャリア・パスポートを活用し、自分の高校生活を見通したり振り返ったりすることで自己理解を深めさせ、将来について考え主体的に学び続ける力を育む。 ⑭部活動への加入率を上げ、帰属意識、自己有用感、自尊感情を高め、部活動全体の活性化を図る。
(6) 看護教育の充実、5年一貫看護師養成教育の充実	⑮衛生看護科・専攻科の発達段階を踏まえ、5年一貫教育の利点を活かした教育活動を展開し、看護に関する知識・技術の習得を図り、将来の医療従事者として活躍できる人材育成を目指す。 ⑯教科指導・実習指導・載帽式を始めとする各種行事を通して、看護職への自覚を促すとともに、看護師としての職業観・倫理観の育成と人間的成長を目指した全人的教育に努める。 ⑰病院・施設等の関連機関との連携を深め、臨地実習等が実践的で、より発展的な学びを得る場となるように努める。併せて、将来、地域医療の担い手となる人材の育成に資するキャリア教育を展開する。
(7) 開かれた学校づくりと外部への情報発信の推進	⑱地域社会や関連機関と連携した教育活動を積極的に展開し、信頼関係を構築する。 ⑲本校の特色ある教育活動を積極的に報道機関に情報提供するとともに、ホームページ等で地域社会に発信し、本校の認知度を一層高める。
(8) 業務の効率化と働き方改革の推進	⑳学校業務を見直し業務改善を推進し、生徒と向き合う時間の確保を図る。 ㉑勤務時間を意識し、勤怠管理システム、テレワークシステム、ワークフローシステムの定着化をはかり、先生方の業務負担軽減を目指す。 ㉒本校の前年度の時間外在校時間における月平均時間は 15 時間 22 分、月平均 45 時間超過者割合 (%)0.9%、月平均 80 時間超過者割合 (%)0.0%であり、時間外在校時間 45 時間以内 100%を目指す。
(9) 授業改善	㉓生徒が意欲的に参加する授業を実践する。 ㉔デジタル・シティズンシップ教育の一端として、ICT 教育の充実をはかる。毎時間、ICT 機器を利用した授業展開を心掛け、生徒のタブレット活用促進をはかる。 ㉕各授業において「生徒による授業評価」を年間 2 回実施し、KPI（数値目標）として、授業満足度 3.2 以上を目指す。